



REM 睡眠行動異常症の患者様へ

The Japan Parkinson's Progression Markers Initiative (J-PPMI)のお知らせ

REM 睡眠行動異常症 (RBD) の患者様は、パーキンソン病などの病気を発症するリスクが高いということが最近わかってきました。そこで RBD の患者様を対象に、どのような方がどのような経過でパーキンソン病などの病気になることがあるのかを明らかにするために定期的に診察や検査を行う研究 (J-PPMI) を始めました。

●対象：以下の2つの条件を満たす REM 睡眠行動異常症の患者様
なお、RBD の確定診断には睡眠検査が必要です。
睡眠検査をなさっているかどうかは、主治医にご確認ください。

① 60 歳以上

② パーキンソン病、多系統萎縮症等の神経変性疾患と診断されていない

●期間：4年間6か月ごとに診察・検査を受けます。この間に3か月ごとに電話による簡単な質問があります。

●検査内容：脳 MRI、DaT SPECT、MIBG 心筋シンチ、心理テスト、採血、脳脊髄液採取など

●費用負担：患者様の負担はありません。
ご協力費として薄謝を進呈させていただきます。

※もしパーキンソン病や多系統萎縮症などを発症された場合、本研究参加は停止となります。
その後は、神経変性疾患の診療に習熟した当院の神経内科専門医による、通常の保険診療を受けることもできます。

ご興味をお持ちの方は下記 J-PPMI 事務局にご連絡ください。

国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター病院

National Center of Neurology and Psychiatry (NCNP)

J-PPMI 事務局 電話 042-341-2712(内線 3233)

ホームページアドレス：<http://www.j-ppmi.jp>



1. 研究の目的

REM 睡眠行動異常症(RBD)の患者様は、長い経過のなかでパーキンソン病などを発症するリスクが高いことが最近分かってきました。パーキンソン病とは脳の黒質という部分のドーパミン細胞が少しずつ減り、手足がふるえたり、動きがゆっくりになったりする病気です。パーキンソン病の治療は非常に進歩していますが、残念ながらまだ根治するには至っておりません。様々な研究を通じてパーキンソン病の治療には、症状がはっきりと出てくる前の段階で治療を開始することが重要ではないか、と考えられるようになりました。パーキンソン病になるかもしれないリスクを持っているが、まだパーキンソン病になっていない方がどのような経過をとるのかを明らかにすることが、パーキンソン病の根治治療を考えるうえで極めて重要と考えられています。

そこで RBD の患者様を対象に、定期的に診察や様々な検査をして経過を観察する研究(J-PPMI)を始めました。参加した患者様のうち何名かはパーキンソン病を発症すると予想され、パーキンソン病発症前後にどのような変化が患者様の体内で生じているのかを知ることができます。この研究から得られた知見は、将来のパーキンソン病診療の進歩につながります。



2. 研究の方法

ドーパミントランスポーター(DAT) SPECT という検査で脳のドーパミン細胞がどれだけ減っているかを調べることができます。60歳以上のRBDの患者様にDAT SPECTを行い、ドーパミン細胞が減っている100名とドーパミン細胞が減っていない100名を対象として、定期的に診察や検査を行い、パーキンソン病などの初期症状が出ていないかどうかを観察します。もちろん全員が発症するわけではありません。

具体的には4年間、半年に1回ずつ、国立精神・神経医療研究センター病院(NCNP)神経内科外来を受診していただきます。この間に3か月おきの電話による簡単な問診もあります。

神経内科外来受診時には、神経学的診察、心理評価、血液検査を毎回行います。DAT SPECT、脳MRI、認知機能検査、髄液検査は1年に1回行います。また、MIBG心筋シンチは初回評価時に行い、もし正常であった場合には低下を確認するまで年に1回行います。

本研究はNCNP、順天堂大学、京都大学、大阪大学、名古屋大学で協力して行う多施設共同研究ですが、**個人を特定できる個人情報**が他施設に漏れることはありません。

診察や検査等の費用は研究費で賄うため、**患者様の費用負担はありません。**

なお、研究ご協力へのお礼として薄謝を進呈させていただきます。

診察や検査の結果を知りたくない患者様は、研究に参加しても結果をお知らせしないという選択も可能です。

なお経過中にパーキンソン病等を発症された場合は、本研究参加は中止になり、その後は通常の保険診療になります。ご希望によりNCNP神経内科で責任をもって治療をさせていただきます。

本研究にご興味のあるRBD患者さんは以下の事務局にお問い合わせください。